地理学専攻（博士後期課程）の３つのポリシー

【教育の理念】

地理学専攻は、駒澤大学大学院全体のポリシーに基づき、特に地理学に関する幅広い教養と専門分野の体系的な知識・技術を身につけ、その知識・技術をもって社会の発展に寄与する人材の育成を行うことを教育の理念とする。

上記の理念を達成するために、博士後期課程においては、大学院修士課程修了者、あるいはそれと同等の能力があると認められる者に対して研究指導を行い、地理学のより高度な専門知識、調査・研究能力を身につけた研究者・専門職従事者を養成することを目指す。

【修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

地理学専攻は、専攻の教育理念に基づき定められた下記の３つの能力を身につけ、所定の必修科目の単位を修得し、博士論文審査に合格した者に対して「博士（地理学）」の学位を授与する。学位取得者は深遠な世界観・学問観と高度な専門知識を有し、新たな知の確立を模索する人材となる。博士論文の基準については学位審査基準に明記する。

(DP1) 高度な専門分野の知識や技能の活用力

専門分野に関する高度専門的な学識と、幅広い知見を身につけている。また、それらを総合的に活用する汎用性を発揮し、専門分野における先導者として、地理学を軸として、広く社会に向けて新たな知見や価値を創造・提案し、還元していくことができる。

(DP2) 情報分析、課題設定および問題解決能力

自立した研究者として、独創的な観点から課題を設定し、専門的な学識や技能を用いながら継続的な研究遂行と研究結果の蓄積・収れんを行うことができる。また、最先端のツールや手法を駆使し、専門情報を収集するだけでなく、それらの分析によって、今までにない知見を導き出すことのできる高度な判断力を有する。

(DP3) コミュニケーション能力

学術論文執筆や学会発表などを通じて、自らの独創的な研究結果や新たな知見を国内外の学界に発信すると同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつ、専門的な知見から論理的に意見を述べるなど、主体的に協働することができる。また、研究倫理を踏まえ、適切な方法やツールを用いて自らの研究業績を発信し、自ら導き出した新知見の社会的な活用や定着を模索することができる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

地理学専攻博士後期課程においては、指導教員の講義 12 単位および研究指導を履修する。既往の研究を批判的に検討するとともに、自らの研究蓄積をその中に位置づける。これを基本として視野の広い研究計画を構想する。さらに課題達成のための方法論を立案し、調査および分析を実行する。これらの蓄積の集大成として博士論文を作成する。以上のプロセスを講義および研究指導における教員との議論、国内・国外学会での発表と討論、専門学会誌への論文投稿によって推進する。

さらに、研究における不正行為が行われないよう、カリキュラムの全ての要素の中で研究倫理に関する意識の醸成を図る。

教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

1) 講義科目では、個々の研究分野における専門知識の基礎が修得できていることを前提に、最新の学術研究動向を理解し、研究を遂行するための教授と指導を行う。
2) 研究指導科目では、専門領域・研究課題に応じて博士論文作成上必要とされる指導や議論を繰り返すことにより、緻密な研究指導を行う。

2. 教育方法

1) 講義科目では、豊かな専門知識と発展的な研究能力を深化させ、少人数または個別形式で授業を行う。
2) 研究指導では、課題設定の独創性、研究計画の妥当性や現実性について、指導教員から客観的に評価・助言を行う。さらに、学術論文の執筆指導や学会発表の指導を行い、博士論文作成に向けて研究業績を積み上げる。
3) 研究指導を中心とする、博士論文の作成指導においては、教員と学生の間で「提出要件」、「学位授与の方針」および「学位論文審査基準」を共有し、密接なコミュニケーションを取りながら実施する。
4) 講義科目と研究指導科目は単独に行うのではなく、有機的な関連をもって各学生の研究活動を支える。
5) 博士論文の提出については、指導教員が研究の進捗状況だけでなく、地理学専攻が定める「提出要件」を満たしていることを確認する。提出された博士論文の審査にあっては、主査 1 名と副査 2 名以上で構成される審査委員により、「学位論文審査基準」に則り厳格な審査がなされる。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力、語学力を身につけていることを詳細に確認する。
6) 研究倫理教育は、研究科・専攻に拠らない一般的な内容についてはｅラーニングなどの方法を用いて広く提供し、各専門分野特有の研究倫理については、研究者として自立して研究を遂行できるよう、研究指導を通じて補完する。
7) 学生調査・アンケート等の結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へフィードバックを行う。

3. 評価

地理学専攻博士後期課程では、人文科学研究科の定める評価方法に基づいて学修成果の評価・測定を行う。その中でも特に、最終成果の測定方法として博士論文の質と在学期間中の研究業績を重視する。

4. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎:特に重点を置いている　○:重点を置いている

授業科目等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	各科目等のねらい
講義科目	4	1～3	◎	○		専門分野の高度な知識および情報収集･分析などの研究活動上必要な研究手段･手法をさらに深化させる。
研究指導	―	1～3	◎	◎	○	個別の研究テーマに基づき、指導教員と密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行い、学術論文の作成および学会発表等を通じて、最終的に博士論文にまとめる。
博士論文	―	―	◎	◎	◎	研究の集大成として、自ら設定した研究テーマに関し、独創的な観点から、新たな知見を示す論文を作成する。
研究倫理教育	―	1	○	○	◎	研究者として求められる基本的な研究倫理を身につけ、意識して研究活動を行う。

【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

地理学専攻博士後期課程では、地域文化や地域環境に関する専門分野の学術的研究を、地球的視野に立ってみずから積極的に行い、高度な分析力や問題処理能力を身につけ、常に社会に対する問題意識を持って発言し、社会貢献を目指すとともに、高度な専門職または研究者を目指す入学者を求める。

こうした理解を持った受験生を適正かつ公正に選抜するため、一般入学試験により多面的・総合的な視点で入学者選抜を行う。

1. 求める学生像

（AP1）地理学に関わる知識や技能を幅広く修得し、大学院での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕

（AP2）地理学専攻で継続する研究の成果や専門的知識・技能を社会に還元し、貢献しようとする強い意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕

（AP3）地域社会、国際社会、産業界の事象について主体的に課題を設定し、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく根拠をもって独創的な論理を展開することができる。〔思考力、判断力、表現力〕

（AP4）多様な他者の考えや価値観を尊重して協働しつつ、自らの考えを適切なツールを用いて発信する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている　○：重点を置いている

入学試験制度	選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学試験制度のねらい
一般入学試験	出願書類	○	◎	◎		修士課程レベルの基礎的な専門知識があると認められる者に対し、語学力と研究遂行能力を重視した選抜を行う。外国語（英語）の試験は記述式で行う。面接試験では、専門知識と研究意欲の確認等に加え、修士課程における研究成果を審査する。
	筆記試験	◎		○	○	
	面接試験	◎	◎		○	
社会人特別入学試験	実施していない					
外国人留学生入学試験	実施していない					